



まほろん通信

VOL. 5

(平成14年7月15日発行)
(財) 福島県文化振興事業団
福島県文化財センター白河館
〒961-0835
福島県白河市白坂字一里段86
TEL 0248-21-0700(代)
FAX 0248-21-1075
URL <http://www.mahoron.fks.ed.jp>



1回目の土器野焼きに挑戦

まほろんでは、今年度、粘土を使った実技講座や探検隊などの行事を5回ほど予定しています。その中の第1回目の土器の野焼きを5月25日（土）に行いました。

昨年度も野焼きを行いました。市販の粘土を何も混ぜずに使ったものはそのほとんどが割れてしまいました。そこで今年は、粘土選びから慎重に行い、郡山市の瓦屋さんから分けてもらった粘土に砂を多めに入れたものを使って作っています。

野焼きは、まほろん北側の臨時駐車場の一角で行い、午前9時から午後2時までの約5時間をかけて約30名ほどのみなさんで28個の土器を焼きました。まず火床を作り、周囲に土器を置いて回しながら焙って温度を上げていきます。それから火床に入れ、周囲から時間をかけながら徐々に火を強め、最大火力にした後、自然に火の勢いがおさまるのを待って冷まします。今回は、炭素分の付着が多かったため再度火を入れてそれをとばしました。

火床から恐る恐る土器を取り出すと、割れているものはほとんどありません。粘土選択から野焼きまで慎重に行った結果、今回は成功のうちに終わることが出来ました。参加者のみなさんには焼きあがった土器の感触を楽しみながら、お持ち帰りいただきました。

本年度は、あと3回ほど土器の野焼きを行う予定です。

まほろんの実技講座で土器作りと野焼きにチャレンジしてみませんか。

体験学習

第2次「まほろん探検隊」発足

5月12日の土曜日、「まほろん探検隊」の開始式が行われました。今年の探検隊員は、2期生になります。近所の小学校5・6年生を中心に、17名の子供たちが集まってくれました。メンバーの大半は、まほろんの「常連」たちです。いつもはヤンチャな「常連」たちも、藤本強館長から探検隊の任命書を手渡される時は、緊張した面持ちでした。

1回目は2日間に渡り、2kgの粘土を使って小さな縄文土器を作りました。粘土に砂を混ぜてよく練ることや輪積みの方法、縄目模様の付け方など、土器作りに関する基本的なことを体験しました。各自が自由にイメージした「縄文土器」なので、形はまちまちです。模様の方も、ハートマークがあったりまほろんマークが入っていたり、謎の暗号が彫りこまれていたりと様々でした。

6月に行われた2回目の探検隊では、5kgの粘土を使って前回よりも大きな縄文土器を作りました。今度は本物の縄文土器を目の前に置いて、その土器そっくりに作ることを目標にしました。土器が大きいので、途中で下のほうが崩れてきたり、思ったような形にならなかったりと、隊員たちは悪戦苦闘していました。

前回より随分それらしい土器になりましたが、思い思いの土器を作るのとは、勝手が違うことを身にしみて感じたようです。隊員たちが作った土器は、7月13日に焚火で焼くことになっています。うまく焼きあがったら、10月の縄文料理づくりに使う予定です。

投槍具をつくろう

6月15日(土)に、槍を遠くまで投げるのできる道具「投槍具(とうそうぐ)」を作って遊びました。投槍具は日本の遺跡からはみつかっていませんが、ヨーロッパでは氷河期のものがみつかっています。オーストラリアや北極圏の先住民は最近まで狩りに使っていました。



<投槍具を使って槍を投げる>

投槍具はうまく使うと、手で槍を投げたときに比べて、5倍くらいは遠くまで飛び、その威力は絶大です。と言ってもおおげさな道具ではありません。40cmくらいの棒のはしっこに、ヤリのお尻をひっかけるカギが付いているだけのものです。今回は杉の板材をカッターで削って作りました。槍のほうは篠竹の先に釘を入れ、ガムテープを巻いて重くしています。

できあがった人から、広場に出て槍を投げてみました。投槍具は使い方も単純です。投槍具にヤリをひっかけたらボールを投げるように振り下ろし、タイミングよく槍を離します。投槍具の長さの分、腕だけで投げた場合よりも槍にかかる遠心力が大きくなり、遠くまで飛びます。ただ、槍がうまくひっかからないとぜんぜん飛ん

でくれません。手で投げた方がよいくらいです。なれてくるとみんな、音をたてて槍が飛ぶようになりました。何回も槍を投げては走って取りに行き、走って戻ってくる子供たちの姿が印象的でした。



館長講演会

5月18日(土)今年度2回目の館長講演会が開催されました。テーマは「米作りからクニへ」であり、弥生文化から古墳文化にかけて、日本国が成立した以前のことを、北海道と沖縄等をのぞいた列島規模を対象に講演されました。当日は、あいにくの雨天日でしたが、24名ほどの方が集まりました。稲の起源地や稲作文化の伝達経路、日本列島内に見られた3つの文化(北の文化・本土・南の文化)、“みんなの中の一人の墓”から“一人のための墓”への意識変化などを通して、わかりやすく解説されました。(今後の予定は下表のとおりです。この機会に是非足をお運びください。)



<館長講演会のようす>

期 日	時間・場所	テ ー マ
9月28日(土)	午後1:30~3:30	考古学から見た世界の歴史1「狩と採集の暮し」-旧石器文化
10月26日(土)	講 堂	考古学から見た世界の歴史2「農耕と牧畜の生活」-新石器文化
11月23日(土)		考古学から見た世界の歴史3「都市の誕生、それから国へ」-金属器文化

まほろん夏のてんじ

テーマ：「弘法山のよこあなそうがん—古代ガラスと象嵌の世界—」

期 間：7月27日から9月1日まで

弘法山古墳群は矢吹町の東、阿武隈川を望む台地の崖面に横穴を掘った、今から約千四百年前のお墓です。平成10年度、現在のあぶくま高原道路建設に伴う発掘調査で、8つのお墓の中から武器やアクセサリーが出土しました。

いにしへのガラス作り

アクセサリーは勾玉や琥珀玉の他にガラス玉が六百点余り出土し、当時の輝きを今に伝えています。展示では各地のガラス玉作りの関連資料を紹介し、当時のガラス玉作りの技術に迫りたいと思います。



<ガラス玉と鑄型(千葉県鶴ヶ岡1号墳) 木更津市教育委員会/象嵌柄頭(弘法山古墳群) まほろん>



<飾履復元品(群馬県谷津古墳) かみつけの里博物館>

弘法山象嵌大刀を復元する

5号横穴と呼んだお墓からは象嵌大刀が出土しました。象嵌はかたち(象)を嵌めるという意味で、素材に模様を刻み、異なる素材を入れる技術です。この象嵌大刀は、鉄地にタガネで溝を彫り、中に銀線を入れた刀飾り(刀装具)を付けたものです。

まほろんではこの象嵌大刀と県内の象嵌資料の復元を行いました。これらの復元品を初公開します

タガネの芸術

象嵌の出来はタガネによるところが大きいのです。古墳時代はタガネの技術が華開いた時代です。展示ではタガネの芸術品を紹介し、みなさんを繊細な美の世界に招待します。

シリーズ復元展示

江平遺跡から出土した「横笛」の復元製作

平成11年、石川郡玉川村大字小高の江平遺跡で見つかった沢の跡から竹で作られた「横笛」が出土しました。「天平十五年」と書かれた木簡(木の札に墨で文字を書いた文書)が近くから出土したので「横笛」もほぼ同じ頃のものと考えられます。天平15年は奈良時代の中ごろの年号で、西暦743年です。古代の横笛としては、奈良の東大寺正倉院の横笛がありますが、江平の横笛はこれと同じ頃の国内では最古級の横笛と言えます。

横笛はバラバラの破片になっており、水を含んでプヨプヨの状態でした。このような遺物を将来に残していくには水を合成樹脂に置きかえて乾燥させる科学的保存処理が必要です。この作業を終えてようやく笛の姿が明らかになったのは平成14年になってからでした。出土した笛は破片を接合しても音は出ません。そこで「まほろん」では、この笛の復元品を作って奈良時代—天平の音色をよみがえらせようという試みに着手しました。

製作をお願いしたのは、岐阜県可児市にお住まいの笛師、田中敏長さんです。田中さんは笛の歴史についても深く研究されており、かつて宮城県名取市清水遺跡から出土した平安時代の横笛の復元も手掛けている方です。

田中さんは、実物の詳細な観察から始めました。材質は今も笛作りで用いられている篠竹(女竹)と最もよく似ていました。割れ口か孔の痕跡か判断するのはひと苦



<江平遺跡から出土した横笛(下)と復元品(上)>

労です。歌口(息を吹き込む孔)と指孔の位置を綿密に計測し、孔の間隔と数を推定しました。出土した笛は中ほどで折れており、その部分はどうしてもつながりません。その結果、指孔の数は特定できず、5つ以上で5つか6つの可能性が高いという結論になりました。

観察・計測と復元作業の過程で、今も日本の伝統音楽で用いられている横笛との共通点が見えてきました。横笛には御神楽みかぐらに用いられる神楽笛かぐらふえ、雅楽がくなどで用いられる龍笛りゅうてきと高麗笛こまぶえ、能で用いられる能管などがありますが、指孔の間隔と数から、現段階では神楽笛との関連性が最も強いのではないかと考えられます。

6月23日、復元された横笛の演奏会が「まほろん」で開かれました。天平の音色が笛とともによみがえり、玉川村も含まれる古代白河郡の地に響きわたりました。

横笛の実物と復元品は、6月から来年2月までの文化庁主催「発掘された日本列島展」で全国を巡回しており、来年3月に「まほろん」に戻ってきます。

研修課より

発掘調査の研修

(土坑調査研修)

全国的に梅雨入りのニュースが流れた6月11日から4日間、保原町舟橋遺跡の調査現場を会場にお借りして土坑調査研修を行いました。

考古学では大昔の人々が掘った穴を、土坑(どこう)と呼んでいます。どの時代の遺跡を発掘調査しても必ずでてきますが、その用途などについて、わかっていることはあまり多くありません。

研修では、本物の土坑を使って次の課程を行いました。まず地面をたいらに削り土坑をさがします。次に掘りかたです。土を半分残して埋まりかたを観察します。土坑は調査の過程でその用途のわかることがあり、この過程が最も注意を要します。最後に記録のとりかたです。埋まりかたの観察結果や土坑の形・大きさ・出土した遺物などの写真や図面をとります。

梅雨時にもかかわらず、雨のために研修が中断することもなく、無事4日間の日程を終了することができました。この研修のために、発掘調査現場を研修会場にこころよく提供していただいたほか、研修の実施にあたり何かと便宜を図っていただいた保原町教育委員会の皆様に心から感謝申し上げます。



<土坑調査研修のようす>

総務管理課より

昨年度のまほろん利用実績

平成13年7月15日に開館して、既に12ヶ月が過ぎました。

そこで、開館から平成14年3月31日までに記録した数字を見てみたいと思います。

- ・開館日数 216日
- ・入館者数 34,267人
- ・平均入館者数 159人
- ・地域別利用状況 県外来館者 89%
県外来館者 11%
- ・年齢別利用状況 高校生以下の来館者 37%
- ・団体での来館者 全来館者の24%
- ・開館記念式典 平成13年7月15日
来賓150人、一般来館者703人
- ・開館記念イベント(最も多く来館者があった日)
平成13年8月5日(1,500人)

- ・イベントのない日での最も多く来館者があった日
平成13年8月19日(1,011人)
- ・ホームページ・データベースアクセス数合計 29,873件
- ・収蔵品館内閲覧 19件
- ・写真掲載・転載 22件
- ・出土品貸出し 1件
- ・研修に参加した人447人
- ・常時体験型の体験学習に参加した人 9,792人
- ・まほろん探検隊、実技講座、まほろんイベントに参加した人 289人
- ・「おでかけまほろん」にいったところ 4か所
- ・定期講演会、文化財講座に参加した人 282人
- ・企画展を観覧した人 3回、23,243人
- ・企画展記念講演会に参加した人 2回、105名
- ・ボランティアとして協力していただいた人 57人

平成13年度中は、大変ありがとうございました。これからもご愛顧をよろしくお願いします。

まほろんからのお知らせ

団体利用申し込みについて

今年も4月から多くの団体にご利用いただいています。団体の利用は電話・FAX等で受け付けておりますが、来館日近くにお問い合わせいただいても、先約があって職員が対応出来ない場合があります。予約状況はホームページで確認できるようになっていますので、ご確認いただいてから、早めにご予約ください。

ご利用案内

- 開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)
- 休館日 月曜日(月曜日が祝日・休日の場合は開館し、その翌日が休館)、国民の祝日の翌日(土曜日・日曜日にあたる場合は開館)
- 入館料 無料(体験学習をによっては、材料費が必要な場合もあります。)
- その他 団体(20名以上)でご利用の場合は、事前にご予約ください。

期日	体験・イベントメニュー	体験内容	募集締切	募集人数	対象	材料費
8月17日(土)	ガラス玉づくり	ガラスの材料を溶かし、形づくっていきます。	8月2日	20名	小学生以上	400円
9月21日(土)	縄文土器づくり2	小型の縄文土器をつくります。	9月6日	20名	4年生以下は 保護者同伴	300円 150円
10月19日(土)	土師器づくり	奈良時代の、素焼きのお椀をつくります。	10月4日	20名		
10月13日(日)	古代グルメ祭	縄文風スープを調理して試食します。	9月28日	20名	どなたでも	700円